

# 第448回鉄鋼流通問題懇談会

2019年4月25日(木) 14:30

茅場町「鉄鋼会館802・803」

## 議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
  - (1) 地区の状況
    - 東京、大阪、愛知、新潟地区概況報告
  - (2) その他地区の概況
    - 鉄流懇4月例会で発表の各地区業況アンケート結果
  - (3) 総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2019年7月29日(月) 14:30～

於：茅場町・鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室

	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
<p>1. 需給動向 (景況感)</p>	<p>伊藤忠丸紅鉄鋼</p> <p>国内建築案件については、関東地区の案件を中心に引き続き需要は鈍い。但し人手不足や建設部材の材料供給逼迫の状況は変わらなず、物件によって納期遅延がみられる状況、民間設備投資の床面積は347万m<sup>2</sup>で前月比△11.8%、特に倉庫案件の床面積は前月比△37.9%、工場案件の床面積は△22.2%となっている。</p> <p>鋼管問屋向けの状況は、仕入メーカーからの受注制限及び運送問題が引き続き継続しており、納期が遅れている状況、特に建築で使用される配管材の寸法在庫は枯渇している詳細もある。市況については、3月中にボルトムから+25円/kg (前月比+5円/kg) の値上げが計画されている。また一部メーカーが製造する配管用炭素鋼鋼管のメッキ品については、採算面の問題で4月契約分よりエキストラを一部改訂し、値上げとなる状況。</p>	<p>2019年2月末の薄板三品在庫は、1月比1万2千2百増の440万8千トンとなり、昨年6月以来、8ヶ月振りに440万台を超えた。在庫強弱は、メーカー在庫が、先月比▲1万8千トンの199万1千トン、問屋在庫が先月比2万トンの92万4千トン、コイルセンター在庫が先月比+1万トンの149万3千トンとなった。例年では1月から2月にかけては、稼働日増などで在庫減少となるが、今年度については、メーカーデリバリー一度に回復による国内出荷や輸入鋼材の増量、店売り分野の停滞による流通在庫回転率低下が要因と考えられる。</p> <p>内需のものも、440万8千トンという高い在庫水準については、船舶にはしばらく時間がかかると思われる。</p>	<p>J F E 商事</p> <p>2月末の全国厚板在庫は398千トンで、前月比4,240トン増。出荷量は前月比11,700トン増となった。在庫だが、受入量が多く、結果在庫増となった。在庫率は前月比13.2ポイント減の224.0%とわずかながら改善された。</p> <p>建機、産機など製造業分野は概ね堅調に推移しているが、建築関連はやや一服気味となっている。市況に値崩れは見られないが、上伸力に欠ける。</p>	<p>日鉄物産</p> <p>形鋼:2018年度4/四期H形鋼のときわ会スペース平均出荷量は、76.4千t/m、3/四期比▲15.2千t/m。前年同期比+0.3千t/m。ホルトの調剤問題に付随し荷動きの低迷が不安視されていたが、ここまでは例年同水準の推移。しかしながら、今後はボルト手配難によりアプリケーターの受注姿勢が弱まる動きあり、在庫店では先々の需要動向を不安視している。</p> <p>棒鋼:2018年度4/四期の荷動きは低調。メーカーの鋼種エキストラ改変による値上げを控え、3月の成約は増加。五輪案件収束、再開案件も端発期を迎え2019年度上期は昨年度同等或いはやや微減の推移予想。</p>
<p>2. 需要産業動向</p>	<p>・自動車:19年1月の四輪車生産台数78.9万台 (前年同月比+6.9%)。19年2月の国内販売台数45.2万台 (前年同月比+1.2%)。1月の完成車輸出台数36.2万台 (前年同月比+8.5%)。</p> <p>・建設機:19年2月の建設機械輸出高約2,376億円 (前年同月比+8.9%、内訳として国内+10.2%、輸出+2.0%)。建設機輸出好調で、特にアジアが9カ月連続、北米が17カ月連続で増。19年度も国内、輸出現に堅調に推移すると予想されている。</p> <p>・建築:19年2月 住宅7.2万戸 (前年同月比+4.2%)。19年2月 非住宅347万m<sup>2</sup> (前年同月比△11.8%)。</p> <p>・土木:19年1月 公共土木工事受注額6,769億円 (前年同月比+21.7%)。19年1月 民間土木工事受注額3,237億円 (前年同月比+27.2%)。土木工事受注額は公共・民間土木工事共に増。</p> <p>・造船:19年1月 起工量77万G/T (前年同月比+5.2%)。19年2月 輸出総契約量71万G/T (前年同月比△20.4%)。19年2月末、手持工事量2,497万G/T (前年同月比△3.0%)。世界向け手持工事量は減少が続いてきたが、2020年の50%規制など環境規制強化を控え、造船受注は持ち直しきており、これを受けて世界、日本で複数総トン数を増え、日本の総トン数は3年ぶりに増え、前年の300万トン際より積み増しされた。尚、造船受注量については韓国も大きく伸びしたが、中国は減少した。</p>	<p>2月度の自動車国内販売 (輸入車除く)は、47万9千台 (前年同月比+1.2%)と2ヶ月連続で前年同月比プラスとなった。乗用車は40万1千台 (同△0.1%)、トラックは、7万7千台 (同+8%)、バスは、1万1千台 (同+4.7%)となった。</p> <p>2月の民生用電気機器の国内出荷額は省エネ製品、高付加価値製品に対する高い消費マインドを反映し、1,854億円と (前年同月比+3.3%)と10ヶ月連続のプラスとなった。製品別では、エアコンは503億円 (同+2.4%)と13ヶ月連続のプラス、電気冷蔵庫は369億円 (同14.9%)と2ヶ月ぶりのプラス、電気洗濯機は329億円と8ヶ月連続のプラスとなった。</p> <p>2月の新設住宅着工量は減少した。増設及び改築住宅が増加した。全体では7万2千戸と前年同月比+7.0%。3ヶ月連続のプラスとなった。非住宅着工床面積は事務所及び店舗が増加したが、工場及び倉庫は減少した。全体では979万m<sup>2</sup> (同△2.9%)となった。</p>	<p>3月の造船手持工事量は前月比微増の2,513万G/T。3月の輸出総契約量は前月比66.3万G/T増の137.7万G/Tとなった。前年同月比では91.6%で2ヶ月連続の減少となった。2月の建設機械出荷金額は812億円 (前年同月比9.1%増)、外需は1,564億円 (同9.0%増)、合計2,376億円 (同9.0%増)で5ヶ月連続の増加となった。国内外ともに堅調に推移。</p> <p>産業機械の2月受注状況は内需が2,549億円 (前年同月比18.1%減)、外需は780億円 (同9.1%減)、合計3,329億円 (同16.2%減)で前月比でも224億円減 (6.3%減)となった。圧縮機、運搬機械は堅調だが、ボイラ・原動機が大幅に落ち込んだ。</p> <p>建築分野では大規模物件の需要はあるが、人手不足やボルトの調達遅延は解消されていない。今後の建て方への影響が引き続き懸念される。</p>	<p>2月の全建築物の着工床面積は、979万m<sup>2</sup> (前年同月比+2.9%)と3か月ぶりの減少。内訳として公共建築は33万m<sup>2</sup> (前年同月比+38.5%)で2ヶ月連続微減、民間建築は946万m<sup>2</sup> (前年同月比+0.8%)で3か月ぶりの減少。</p> <p>住宅着工戸数は71,966戸 (前年同月比+4.2%)、季節調整済年率換算値は96.7万戸 (前年同月比+10.9%)。新設住宅着工床面積は5,828千m<sup>2</sup> (前年同月比+7.0%)で5ヶ月連続増。</p> <p>2019年度1/四期の鋼材需要量は、前年同月比+0.1%の横ばい、前期比+0.9%の2,293万トンとなる見通し。土木部門で災害復旧工事等の国土強靱化政策に関連した大型公共投資が見込まれるほか、建築部門でも住宅の消費増税前の駆け込み需要や、工場等の非住宅向け需要の堅調な推移が見込まれることから、前年同月比で微増、季節的要因により、前期比では減少。</p>
<p>3. 輸出入動向</p>	<p>2019年2月度鋼管輸出入量</p> <p>総目無鋼管:3万2,229トン (前月比+12.3%)</p> <p>溶銲被覆鋼管:3万8,150トン (前月比△37.3%)</p> <p>2019年2月度鋼管輸入量</p> <p>総目無鋼管:1,107トン (前月比△33.7%)</p> <p>溶銲被覆鋼管:1万5,053トン (前月比+15.8%)</p>	<p>2月度の普通鋼材輸入量は44万トン (前年同月比+12.7%)と2ヶ月連続の増加となった。主要3品では、熱延が13.2万トン (同+4.7%)、2ヶ月連続、冷延が9.3万トン (同+29.1%)、5ヶ月連続、亜鉛被覆鋼管が9万トン (同+20.5%)と2ヶ月連続のプラスとなった。</p> <p>普通鋼材輸出入量は148.7万トン (前年同月比△21.2%)と4ヶ月連続のマイナスとなった。主要3品では、熱延鋼管が58.1万トン (同△34.7%)、4ヶ月連続、亜鉛被覆鋼管が19.3万トン (同△14.2%)、4ヶ月連続、冷延鋼管が14.6万トン (同△16.8%)、2ヶ月連続のマイナスとなった。</p>	<p>2月の輸入実績は前月比2.6千トン減の51千トン。台湾からの入着が3千トン減となった。</p> <p>2月の輸出総契約量は前月比50千トン減の191千トン。中国向けは23千トン減、韓国向けは14千トン減となった。</p>	<p>輸出)2019年2月のH形鋼の輸出は2.1万m<sup>2</sup>で、前月比46.0%増、前年同月比26.2%増となり、2018年11月ぶりに2万m<sup>2</sup>台を回復。向け先は韓国、香港、シンガポールがメイン。</p> <p>輸入)2019年2月のH形鋼の輸出は0.9万m<sup>2</sup>で、前月比6.0%減、前年同月比53.5%増。主な仕入先は中国、韓国。</p>
<p>4. 海外市場動向</p>	<p>&lt;ラインハイブ&gt;</p> <p>現在中国東部を動向を中心に、いくつかの大型国際入札が行われている。多くが2019年3Q前後に発注となる見込みで、2020-21年度に製造が予定されている。</p> <p>&lt;油井管&gt;</p> <p>WTIは昨年12月に115.40\$/バレル台に落ち込んだものの、年初から持ち直し2019年4月初時点では60\$/バレル台で推移している。米国一部地域では輸送用パイプラインの需を越える生産となった。状況は変わらず、リグアウトも半年前と比べるとやや落ち込んでいる。中東湾岸産油国の油井管需要は堅調に推移しており、ヨーロッパやアフリカ、インド、パキスタン含めたアジア地域等からも引合が出てきている。</p>	<p>中国国内鋼材市況については、3月末に熱延市況が4ヶ月ぶりに4000元台に乗り、冷延及び亜鉛被覆鋼管市況についても、それぞれ9週連続で上がっている。中国政府が景気対策を打ち経済を下支えしていることに加え、ブラジル鉱山ダムの決壊、及び冬季の鉄鋼操業制限が解除されたことによる原料需要増の見込みから輸入鋼材の需要は高く、価格も上げ基調を維持することから、国内市況は上昇基調が続くと見込まれる。</p>	<p>増値税引き下げや国内景気刺激策の影響はまだ不透明であるが、先物市場は回復傾向にあり、当面は安定した価格で推移するものと思われる。</p>	<p>中国の2019年3月の粗鋼生産は8,033万m<sup>2</sup>で2018年10月以来の8,000万m<sup>2</sup>台に回復。3月半ばには冬場の減産が終了し、各社が増産に転じたものとみられる。</p> <p>また中国国内は米中貿易摩擦の影響により自動車など各産業の先行きに不透明感はあるが、旧正月明けより鋼材価格は現物、先物価格ともに少しずつ上昇傾向にある。足元のスクラップ価格の下落により電炉H形鋼の値下げ懸念はあるが、高炉H形鋼については原料である鉄鉱石の値上がりにより、今後も輸出向けオフアワーは上昇する見方である。</p>
<p>5. トピックス</p>				

発表者

発表項目

1. 需給動向（景況感）

（国内）・日本経済は緩やかな回復基調を続けているが、3月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業でプラス12と前回12月調査から7ポイントの悪化となった。米中貿易摩擦の影響等による中国経済の減速や消費増税後の国内需要減が懸念され、自動車や産業機械などの製造業を中心に今後の業況見通しが悪化している。

19年度の設備投資計画は大企業や製造業では前年度比小幅プラスも、中小企業や非製造業では慎重化の動きが見られる。

- ・家計部門については、2月の小売業販売額が16ヶ月連続前年同月比でプラスとなり、雇用環境も企業の人手不足感は継続しており、堅調となっている。
- ・部門別活動状況は、製造業部門は2月の自動車生産が前年同月比2ヶ月連続の増加、2月の機械受注実績は5ヶ月ぶりの前月同月比減少となった。また、建設部門は大型再開発案件や官民土木向けをなどで安定的に推移しているものの、一部の中小建築案件では人手不足や材料調達ネックによる工期遅れが懸念される。

（海外）・中国では貿易摩擦の影響により輸出入や工業生産で減速がみられるが、固定資産投資等では政府の景気刺激策の効果が顕在化しつつある。米国経済は通商問題から緩やかな減速が想定され、ASEAN諸国は内需堅調も、一部では輸出入で減速が見られる。欧州では英国のEU離脱を巡る混乱や外需の先行き不透明感から景気減速が続く。

<国内鉄鋼需給>

- （生産）・19年3月の粗鋼生産は前年同月比微減（▲0.0%）の908万tで7ヶ月連続の減少。
- 18年度は1億289万t（前年度比▲1.9%）で2年連続の減少。
- （出荷）・2月の普通鋼国内向け出荷は391万トン（前年同月比+3.9%）で2ヶ月連続の増加。一方、輸出向け出荷は141万トン（同▲23.0%）と4ヶ月連続の減少。
- （在庫）・2月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は591万トン（前月比▲7万トン）、3ヶ月ぶりに減少。
- ・2月末の薄板3品在庫は441万トン（同+1万トン）、3ヶ月連続で増加。
- ・2月末の厚板シャワー在庫は40万トン（同+0万トン）、2ヶ月連続で増加。

2. 需要産業動向

- 〔建築〕・2月の新設住宅着工戸数は7.2万戸（前年同月比+4%）で3ヶ月連続の増加。持家・分譲が増加し、貸家が減少。
- ・非住宅着工床面積は370万㎡（同▲15%）で3ヶ月ぶりの減少。商業・サービス業用は増も、鉱工業等で減。
- 〔自動車〕・3月の国内販売は59.8万台（前年同月比▲4%）で3ヶ月ぶりの減少も、18年度では前年度比+1%の増。
- ・2月の完成車輸出は41.7万台（同+0%）で3ヶ月連続の増加。北米、欧州、アジア向けで増加。
- ・2月の四輪生産は86.3万台（同+1%）で2ヶ月連続の増加。
- 〔造船〕・3月の新造船受注量は138万GT（前年同月比▲8%）の受注。19年3月末の手持工事量は2,513万GT（同▲8%）と漸減継続。

3. 輸出入動向

- 〔輸出〕・2月の全鉄鋼輸出は234万トン（前年同月比▲22%）で4ヶ月連続の減少。米国、中国、韓国、ASEANで減少。
- 〔輸入〕・2月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は51万トン（前年同月比+14%）で3ヶ月連続の増加。韓国は2ヶ月連続増（同+4%）、中国は6ヶ月連続増（同+140%）、台湾も2ヶ月ぶり増（+5%）。

4. 海外市場動向

- ・2月の世界粗鋼生産は、中国や米国で前年同月比増加、1億3,727万トン（前年同月比+4%）となった。
- ・3月の中国粗鋼生産は8,033万トン（前年同月比+10%）、日当たり259万トン。冬期減産規制が終了した影響と見られる。
- ・3月の中国鋼材輸出は633万トン（前年同月比+12%）、2ヶ月ぶりに前年同月比増。前月比では5ヶ月ぶり増。